



編集・発行
 十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム
 〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1
 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103
 「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。

雪まつり企画

※十日町情報館の駐車場は雪まつりの駐車場ではありません。
 雪まつり公式HPやポスターで臨時駐車場をご確認ください。



**第77回十日町雪まつり企画
 なつかしの映像上映**

「わたしたちの雪まつり」(昭和63年)
 「雪国十日町のくらしと克雪」(昭和60年)



なつかしい昭和時代。冬の十日町の生活を記録した貴重な映像を上映します。

期 間/2月20日(金)~22日(日)
 ※開館中リピート再生
 場 所/十日町情報館2階 インターネットコーナー隣

「みんなでかざろう ゆきのけっしょう」

結晶のパーツを自由に組み合わせてオリジナルの雪の結晶を作ってみよう！児童コーナーの壁面やスロープに貼っています。1人1日1回、本を借りなくても参加できます。



テーマ展示

決定！第174回 芥川賞・直木賞決定！

令和7年度下半期の芥川賞・直木賞が1月14日(水)発表されました。関連コーナーを2階新着コーナー向かいに展開中です。

【芥川龍之介賞】

鳥山まこと『時の家』(講談社) **所蔵予定**
 畠山丑雄『叫び』(新潮社) **所蔵予定**



【直木三十五賞】

嶋津輝『カフェーの帰り道』(東京創元社) **所蔵あり**

パソコン講習

【令和7年度 情報館主催 パソコン講習】
 小学生必見！

プログラミング学習講座

プログラミングソフト「スクラッチ」を使ってオリジナルゲームを作ろう！自分で作ったゲームを持ち帰りた人は、USBメモリをお持ちください。

日 時/3月28日(土)、29日(日)
 午前9時30分~11時30分
 対 象/小学4年生~6年生
 ※4月から4年生の方も可



受講料/1,000円
 会 場/情報館1階 コンピュータ研修室
 定 員/先着11人
 申込み/専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもお申込みできます。

イベント報告

豆まきをしました

みなさまの無病息災を願ひまして、豆まきを行いました。ご参加いただいた皆さんありがとうございました！



おにはそと！ふくはうち！
 こどもも、おとなも楽しく豆をひろっていました。
 すてきな1ねんになりますように。

名作読書講座

106回名作読書講座

『勿忘草の咲く町で』



夏川草介/著 KADOKAWA
 命の尊厳とは何か？ 高齢の患者が多い地方の小規模病院で、答えのない問いに必死で向き合う若き研修医と看護師の奮闘を描いた連作短編集。

日 時/3月8日(日) 午後2時~3時15分
 会 場/第1集会室
 対 象/中学生以上
 講 師/庭野三省さん
 定 員/25人(申込み不要)

★申込み、参加費ともに不要！作品を読んでもOKです。お気軽にご参加ください。

2月のおはなし会 ()内は対象、時間はすべて10時30分から

◆情報館

- 7日(土)／おはなしぴよぴよ(乳幼児)
- 14日(土)／おはなしぴよぴよ(乳幼児)
- 21日(土)／おはなしぴよぴよ(乳幼児)
- 28日(土)／おはなし「たまたまぼこ」(乳幼児)



◆川西分室

21日(土)／おはなしの会「ふきのとう」
(乳幼児～小学校3年生くらい)



◆松代分室

14日(土)／おはなしたんぽぽ
(幼児～小学校低学年)



本のちから (23)

子ども読書活動推進コーディネーター
林 篤子

「家読(うちどく)」という言葉をご存じですか。

「家庭読書」の略です。家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動です。全国の小中学校で行われていた「朝の読書」の家庭版として2006年に株式会社トーハンが提唱し、全国へと広がっていきました。現在は「家読」という言葉も定着し、学校、図書館、自治体など、それぞれのやり方で行われています。十日町市では第3日曜日を「家読の日」とし、家庭読書を推進しています。

スマホが普及した現在、時間や労力をかけずに様々なことができるようになりました。とても便利で、もはや生活には欠かせないものです。と同時に、スマホを使えばすぐに答えにたどり着けるので、本を読んで自分で調べることや、年長者や経験のある人から教わることも少なくなり、人とのつながりが希薄になっているように感じます。コミュニケーション不足からの独りよがりの思い込みや誤解が生まれてしまう、というようなことは職場や学校だけではなく、家庭でも起きているのかもしれませんが。レストランなどでも、ご夫婦やご家族それぞれがスマホを眺めながら無言で食事をしている、公共の場で子どもを静かにさせるためにスマホを渡している姿も多く見かけます。一昔前は、子どもがぐずった時の救世主は、バッグに入れておいた小さな絵本だったことを思い出します。ゆっくり自分のペースで、気が済むまで繰り返し読むことができる絵本は親子の大切なコミュニケーションツールの役割も果たしていました。

家族みんなで同じ本を読むのもよいですし、それぞれ好きな本を読み、読んだ本について話すのも素敵ですね。そうした時間や経験が心を豊かに育み、デジタルデトックスにもなり、今の時代に必要なことなのではないかと感じます。子どもたちがやがて大人になったとき、大切な思い出として継承されていくのかもしれない。

「家読」をはじめてみませんか？

株式会社トーハンの「うちどく実践ガイド」では子どもたちが考えた、以下の家読の約束が書かれています。参考にして、ぜひご自分のやりやすい方法で「家読」を実践してみてください。



- ① 家族で同じ本を読もう！
- ② 読んだ本で話そう！
- ③ 感想ノートをつくろう！
- ④ 自分のペースで読もう！
- ⑤ 家庭文庫をつくろう！

十日町市では毎月
第3日曜日を家読の
日としています。
今月は15日(日)
です！



<h3>2月のテーマ図書</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 一般向け <ul style="list-style-type: none"> ◆ 恋愛・スイーツ ◆ 文学賞受賞作 ◆ ぱっ!?!と目を引くタイトル本 ほか ● 児童向け <ul style="list-style-type: none"> ◆ たのしいふゆ ◆ あまーい ほか 		<h3>2月はお休みです</h3> <h4>◆ 閉架書庫公開</h4> <p>【今後の公開予定】3/15(日)</p>
--	--	---

十日町情報館

● 開館時間 午前9時～午後7時 ● 休館日 第2・第4月曜日、特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)
各分室の開館カレンダーは、十日町情報館「WebOPAC」のウェブサイトでご確認ください。



ホームページ



Instagram